屋久島の自然を守る

三年一組　井脇　海愛

私が自然を守りたいと思ったのは宿泊学習で初めて滝を見たことがきっかけです。その時に行ったのは、日本の滝百選にも選べれる屋久島の代表ともいえる大川の滝です。

大川の滝は前日に雨が降っていたためか普段よりも迫力の増したものでした。いままで屋久島の自然に触れあってくることがなかったため、高いところから水が落ち、泡を立てるのはとても印象に残る景色で自然はそこにあるだけで人を感動させたりすることができるのだと感じました。そこで私はこの滝を守っていくべきではないかと感じました。

初めに私が一番守るべきだと考える滝が二つあります。

一つ目は、私が初めて見た大川の滝です。

大川の滝とは千尋の滝と並ぶほどに有名な屋久島の滝であり、落差八八メートルもある迫力のある滝です。また、「日本の滝百選」に

20 × 20

選ばれています。さらに、大川の滝は堆積岩が熱によって変形してできた、ホルンフェルンの岩盤を流れ落ちるという大きな特徴もあります。

二つ目は、だれでも聞いたことのある千尋の滝です。この滝は落差六〇メートルもあり、実際に見てみると、距離があるため迫力は感じづらいのに対し、千尋の滝に伝わる話を知ることでまた違った迫力が感じられます。その話とは、千尋の滝の名前が滝の左側にある岩盤がまるで千人の人が手をつないだように大きいことが由来とされているというものです。また、昔は身体の単位が尋だったため千尋と呼ばれるようになったと考えられています。このことから千尋の滝の凄さが伝わります。他にも、千尋の滝を近くで見ることができる吊り橋や全貌を見ることができる場所もあり、島外から来た観光客の人にもおすすめの滝です。私も一度は吊り橋から千尋の滝を見てみたいと思いました。

20 × 20

また、滝を流れる屋久島の水は、自然で作られており、そのまま飲むことが可能な硬度一〇グラムリットルの超軟水がほとんどです。私たちがこの超軟水を家庭で飲むことができるのは、一〇〇〇メートル以上の山々や多数の滝や河、などの人の手が加わっていない自然があるためです。

ですが、その綺麗な滝などを残すうえで考えなければいけないことも多くあります。例として、数年前には神奈川県伊勢原市の三段の滝が、付近で行われていたトンネル工事により、水がなくなってしまったり、ごみのポイ捨てしたりすることによる水質の汚染など、人の手が自然の近くに入ることで失われることがあります。

私はこのことから、屋久島の感動する滝などの自然をこれからも様々な人々に広げて、残していくために屋久島の滝、自然を守るべきであると考えます。また、守るだけでなくその自然に向き合っていくべきでもあると

20 × 20

思います。

20 × 20